

防火・防災の決意を新たに

対馬市消防出初式

対馬市消防出初式が1月6日、対馬市公会堂（豊玉町仁位）で開かれ、市内96分団、520人の団員が防火、防災への誓を新たにしました。

式に先立ち行われた分列行進では、豊玉中学校から豊玉地域活性化センターまでの約400メートルを、仁位保育所幼年消防クラブ園児49人を



峰消防団の一斉放水訓練の様子

先頭に、団員520人、消防車両30台が力強く行進をしました。

「お父さん、タバコの投げ捨てやめましょう」「お母さん、天ぷら鍋の火を止めて」「マッチ一本火事の元」と元気がよく園児が太鼓を叩き防火を呼びかけました。

式典では、市長が「災害から市民の生命と財産を守る消防の使命と責任の重大さを理



式典で人員報告をする宮崎団長

元気よく防火を呼びかけた仁位保育所幼年消防クラブ



解され一層のご尽力を」と式辞を述べ、長年消防業務に功績のあつた団員への表彰や退団された団員に感謝状を授与しました。

宮崎義則団長は「自分たちの地域は自分たちが守り一致団結を」と訓示し、式の後、各町で一斉放水訓練を行い、団員の士気を高めていました。平成20年に対馬市で発生した火災件数は21件、その内、建物火災が14件と3分2を占め、昨年より2件増加、出火原因はガスコンロやたばこが多く、ちよつとした不注意が火災を招いています。

消防意見発表大会

最優秀賞に 飯野 聡さん

対馬市消防本部主催による第21回対馬市消防職員意見発表会が1月20日に開催され、若手消防職員7人が、日頃の勤務で感じた課題や問題、今後の改善策などについて意見を発表しました。

最優秀賞には、「6分間 勇気 未来」と題し発表した消防署美津島出張所の飯野聡さんが選ばれました。

飯野さんは、国内で救急車が現場に到着する平均時間の6分間の重要性を訴え、市民が突然心肺停止した際、その場に居合わせた人が心肺蘇生を速やかに行えば、救命効果



最優秀賞に選ばれた飯野さん



が向上する。そのため多くの人の命を救う心肺蘇生術や自動体外式除細動器（AED）の普及を強調しました。「心肺蘇生術を毎日、出勤前や夕食時の時間帯にテレビで放送することにより、多くの人に少しでも関心を高めてもらいたい。視覚で訴え、記憶に残すことが初期救命措置において、絶大な効果を与える。このたつた6分間の勇気が、誰かの未来へとつながる。あなたの救急活動への参加が求められている」と発表しました。飯野さんは、4月7日に島原市で行われる県下消防職員意見発表会に出場します。優秀賞には、「大切な命のために」と題した消防署本署の扇祥喜さんが選ばれました。

天まで届け今年の願い「キッシュウ焼き」



1月11日、上県町佐護地区で正月の伝統行事「キッシュウ焼き」が行われ、佐護小学校の児童や生徒ら約100人が1年間の無病息災を祈りました。

途絶えていた伝統行事を体験してもらおうと佐護中学校区育成会（平山美登会長）が4年前から開催し、昨年暮れ、地域住民が学校近くの田んぼに高さ・直径約3mの杉の枝や竹を積み上げました。この日は、強風のため開始時間が3時間遅れ、午前9時に点火されると白煙や炎が勢いよく

舞い上がり、時折「パーン」と竹が破裂する音が山々に響き渡りました。

書き初めの紙が煙にあおられて高く上がると、書が上達すると言われており、児童、生徒らは「責任感」「感謝」など思いをしたためた半紙を手に、炎に向かい今年の目標を誓いました。参加した阿比留和弘くん（小6）の目標は「一生懸命」「来年は中学生、スポーツに勉強に一生懸命頑張ります」と一年の目標を誓いました。



一生懸命を誓った阿比留くん

ワクワク、ヒックリ パントマイム



1月21日、厳原幼稚園でパントマイムが披露されました。「壁がないのに、あるみたい」「何で？」と園児を驚かせたのは、長崎出身でパントマイムを始めて20数年、1人で全国各地の保育所や幼稚園などを訪れ、2000回以上公演を行っている村田美穂さんです。

引っ張ったり、引っ張られたりとコミカルな演技で笑わせる綱引きや、両足を踏ん張り透明なバーベルをいかにも重そうに持ち上げる重量挙げ

に、園児や保護者がくぎ付けになりました。

風船ショーでは、細長い風船が素早く犬やキリンなど動物に変身。次はどんな動物に変身するのかなとワクワクしながら見つめる園児は、美穂さんの一つ一つの演技に驚いたり感動したりと目を輝かせていました。

上対馬町琴ヶ芦見

城岳トンネルが開通

車で4分間時間短縮



主要地方道上対馬豊玉線の上対馬町琴ヶ芦見間に建設されていた「城岳トンネル」が全長640m、車道幅員5.5mを含む、琴ヶ芦見工区的全線が完成し、2月5日から供用が開始されました。

「交通安全都市宣言市」を宣言

対馬市では、昨年、6人の尊い人命が交通事故により失われました。県全体の交通死亡事故数は、減少傾向にある中、本市では逆の結果となっており、まさに憂慮すべき事態です。

対馬市の運転免許人口は、10月末で20,584人、県全体の2.4%であるが、交通事故死者数の割合は17.1%と、信じがたい数字になっています。

今こそ市民全体が一丸となって交通安全対策に真剣に取り組み、交通事故がない、安全かつ安心して生き生きと暮らせる元気なまちづくりを実現するため「交通安全都市宣言市」として宣言します。

当工区は、平成15年度から事業を開始し全体延長は2280m、平成18年度までに琴側465mを部分供用し、この度、城岳トンネルを含む1815mが完成したもので、総工事費は、約25億円。これにより約1500m、車で約4分間の時間が短縮され通勤、通学路等の安全確保や大型車両の進行がスムーズになり、産業、経済の進展に大きな効果が期待されます。

30点が出品 元気野菜コンテスト



第3回「元気野菜コンテスト」が1月18日、峰地区公民館で開かれ約150人が参加しました。

家庭から出るごみの約4割を占めるといわれる生ごみを利用し、ごみの減量化を図ると共に自然環境の保全、食育などについて考えようと生ごみ減量化ネットワーク長崎などが主催しました。

元気野菜は、生ごみを微生物の力で分解し、土に戻して栽培した野菜で、栄養価が高く野菜本来の味を持つと言われ、自然と植物とのつながりについて考える「食育」の分野でも注目されています。

コンテストには、大根、白菜、人参、ブロッコリーなど元気野菜30点が出品され、上県町久原の原田良子さんのブロッコリーが、最優秀賞に選ばれました。

出品された野菜はどれも色鮮やかにたくましく成長したものでばかりで、皆さんを驚かせていました。また、環境アドバイザー中尾慶子さんの講演も行われ、微生物がもたらす食の重要性、人体との関わりなど食の改善、意識の改革を参加者に教えてくれました。



最優秀賞に選ばれた原田さん

偉大な先人たちの苦勞を体験

1月10日、佐須奈小中学校の児童生徒や保護者、地域の方々約100人が明治時代に分校の生徒が通った山道を歩きました。

佐須奈地区青少年健全育成協議会（原田聖也会長）などが先人の偉大さや自然の壮大さ、郷土愛を育んでもらおうと企画されたもので、佐須奈の島大國魂御子神社境内から上対馬町浜久

須までの7キロを、3時間かけ歩きました。山道は、急傾斜や細く険しい箇所が多く恐怖の余り泣き出す児童もいるほど、ロープを張り安全を確保し、互いに励まし合いながら目的地の浜久須公園を目指しました。険しい山道を歩き終え舗装道路に出てきた時は、参加者全員が安堵の気持ちに浸たり改めて、先人の偉大さと自然の壮大さを実感していました。

明治時代は、佐須奈小中学校の分校が上対馬町の玖須、大増両地区にそれぞれあり、教諭や児童が山道を歩いて行き来していました。参加した八島史織さん（中2）は「舗装されていない山道を歩くのは大変でちよっときつかったです。昔の人はすごい」と話してくれました。



お疲れさまでした

とうすい 桃水飴がPRにひと役



厳原町に生まれ明治、大正時代に小説家として活躍した半井桃水の似顔絵入り飴「桃水飴」が、桃水の生家跡である「半井桃水館（厳原町中村）で発売されています。

桃水は、少年時代韓国・釜山で過ごし、東京に帰ってからは新聞記者や小説家として活躍、樋口一葉の師としても知られています。

同館の指定管理者NPO法人「対馬郷宿」が、東京の一葉記念館で販売されている「一葉飴」をヒントに、多くの人に桃水の顔を知ってもらい、同館と対馬のPRになればと、桃水誕生日の1月12日から販売をはじめました。

一袋5粒入りで200円
砂糖味で無香料

問い合わせは、半井桃水館
0920 52 2422

就任

太田鳳祥
 厳原町豆酸



平成21年1月1日付けで対馬市の新しい人権擁護委員として就任された太田さんです。世の中で弱い立場である子供と高齢者の人権に関わりたいと抱負を述べられました。これからよろしくお願ひします。

人権擁護委員が 変わります

退任

永尾五助
 厳原町豆酸



平成20年12月31日をもって、任期満了により退任されました。永尾さんは、平成8年2月15日から人権擁護委員を務め地域に根付いた人権擁護、啓発にご尽力されました。長い間本当にありがとうございました。

ジェットfoil運航に関する 経過説明会を開催



1月16日、上対馬総合センターで平成21年4月以降のジェットfoil運航体制協議に関する経過説明会が開催され、100人の住民が参加しました。市からは、九州郵船との協議の中で比田勝港便の運航再開は、現在の燃料価格、従来の利用状況では、相当な補填が必要であり、当面の運航は難しく、まず早期に対馬からジェットfoilで日帰りできる運航体制を確保するために、厳原港起終点の2便の運航体制を構築していきたいとの説明がありました。これに対して住民からは、運航再開に対する意見と共に、他社の参入を求める意見や、「フェリーげんかい」の改善を求める意見などが相次いでいました。

人事異動

1月31日付退職
 勝見末利（福祉保健部長）

2月1日付異動

氏名後の（ ）内は旧所属

【市長部局】

《観光物産推進本部》 上対馬観光物産事務所長（昇任） 〓 平間千弘（教育委員会生涯学習課参事兼課長補佐）

《総務企画部》 総務課豆酸出張所長 〓 棧原馬佐敏（美津島地域活性化センター） 〓 住民生活課長

《市民生活部》 部長 〓 近藤義則（上対馬地域活性化センター） 部長 〓 税務課長（昇任） 〓 川崎英嗣（同課参事兼課長補佐）

《福祉保健部》 部長（昇任） 〓 扇照幸（監査事務局長）

《農林水産部》 部長（昇任） 〓 川本治源（同部基盤整備課長） 理事 〓 小島憲治（同部部長） 基盤整備課長 〓 松村利宏（北部建設事務所長）

《建設部》 北部建設事務所長（昇任） 〓 島居清晴（同事務所参事兼課長補佐） 同事務所副参事兼係長 〓 山口博邦（上県地域活性化センター） 地域支援課

《美津島地域活性化センター》 住民生活課長 〓 俵邦雄（市民生活部 税務課長）

《豊玉地域活性化センター》 部長 〓 橋本政次（市民生活部長） 理事 〓 松井雅美（同センター） 部長 〓 永留秀幸（教育委員会教育部長） 理事 〓 阿比留博幸（同センター） 部長

《上県地域活性化センター》 部長（昇任） 〓 武田延幸（上対馬観光物産事務所長） 理事 〓 原田義則（同センター） 部長

《上対馬地域活性化センター》 部長（昇任） 〓 糸瀬良久（同センター） 地域支援課長 〓 地域支援課長（昇任） 〓 古里満雄（建設部北部建設事務所参事兼課長補佐）

《教育委員会事務局》 教育部長（昇任） 〓 中村敏明（同委員会総務課長） 総務課長 〓 梅野泉（峰地区生涯学習センター） 〓 所長兼峰地区公民館長（兼務） 〓 浦田一徳（中地区教育事務所長）

《監査委員事務局》 事務局長 〓 主藤繁明（総務企画部総務課豆酸出張所長）